協同的読解が批判的読解に及ぼす影響

○沖林洋平 1・藤木大介 2
(1 山口大学教育学部・2 愛知教育大学)

目　的

本実験では，協同的読解活動が批判的読解に及ぼす影響について検討した。批判的読解とは，批判的思考を適用した読解活動であるとされる。批判的思考の定義は研究者によって様々であり完全な一致をみることはないが，楠見(2011)は，これまでの研究をまとめた結果，次のような概念的定義を行っている。すなわち，「1．批判的思考は，論理的・合理的思考であり，規準(Criteria)に従う思考である(楠見，1996)。2．批判的思考とは，自分の推論プロセスを意識的に吟味する内省的(Reflective)・熟慮的思考である。3．批判的思考とは，より良い思考を行うために，目標や文脈に応じて実行される目標志向的思考である(Halpern, 1998；楠見，1996)」本研究における批判的読解とは，目的に応じて自らの読解過程を内省的・熟慮的に意識的に吟味しながら進める読解活動であるといえる。そのような，批判的読解を促進する教授法の 1 つとして，本研究では協同的読解活動に注目した。

方　法

実験参加者　山口大学の大学生 63 名。

実験計画　協同的読解活動後の批判的思考の教授の有無, 協同的読解活動前後の 2×2 の実験計画とした。

材料　1．批判的読解力課題(沖林，2012)　ゼックミスタの批判的思考の教科書から 3 題を選び自作した。本課題では批判的思考力のうち，比較対象を設定できるか，過度の一般化を指摘できるか，などを測定した。

2．批判的思考態度尺度(楠見・平山，2009)　4 因子構造，12 項目

3．協同作業認尺度(長濱・安永・関田・甲原，2009)　3 因子構造，17 項目

結果と考察

批判的思考の「論理的思考の重視」「探究心」「客観性」「証拠の重視」それぞれについて，批判的思考の教授の前に測定した。協同活動認識尺度については，各群批判的思考の教授の前後に測定した。本研究では，批判的思考態度と事後に測定した協同活動認識尺度に関連が見られたものを報告する。

Table1 および Figure1 に批判的思考の客観性と事後の協同活動認識尺度の「互恵懸念因子」に関する，批判的思考の教授の有無をダミー変数とする階層重回帰分析の結果を示した。その結果，批判的思考の教授があった群においては，互恵懸念因子と負の相関があったのに対し，批判的思考の教授がなかった群においては，互恵懸念因子との相関は見られないことが分かる。

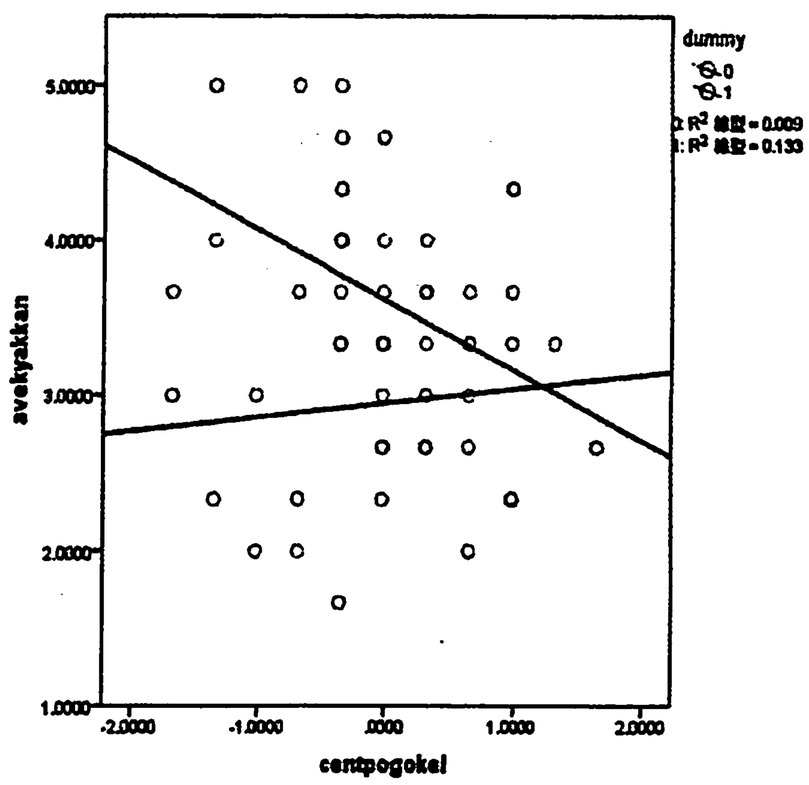

Figure1　客観性と事後の互恵懸念因子との関連

Table1
客観性と互恵懸念因子の階層的重回帰分析結果

	Step1		Step2	
	b	*bSE*	*b*	*bSE*
Step1				
教授有無	.693	.47	.661	.397
互恵懸念	-.098	.139	.09	.078
Step2				
教授×互恵			-.543	.05
⊿*R2*	.20		.047	
Adj⊿*R2*	.17		.05	